

令和4年度 教育課程特例校編成の方針等について

守谷市立黒内小学校

1 守谷市における特別の教育課程特例校編成の方針等について

守谷市では、守谷市保幼小中高一貫教育のスローガン「世界に輝く人づくり」を目指し、急速に進展するグローバル化に対応することができる人材を育成するため、小学校1年生～2年生において、生活科の35時間分（1年生は34時間分）を新設する。「英語活動」においては、守谷市独自に配置している外国語指導助手（ALT）との交流の機会を多く設け、体験的な活動をととして外国語や異文化を理解し、自他の文化や価値を尊重することができるグローバルな視野や態度の素地を育む学習を行うことを目指し、特別な教育課程を編成する。

2 守谷市における地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

守谷市では、保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」を推進しており、就学前の保育所等でも、英語を用いた遊びなどを積極的に取り入れており、一貫教育として就学前の学びを小学校入学後においても継続する必要性がある。昨年度行った意識調査からも、外国語に係る学習への興味・関心が高い児童の割合が高く（90.5%）、将来は国際社会で活躍することを希望する児童生徒も多い。保護者からも本市の外国語教育に係る取組に対して高い支持を得ており、今後グローバル社会に対応することができる人材を育成するためにも特別の教育課程を編成する必要がある。

3 本校における特別の教育課程の編成・実施における成果と今後の方針について

本校では、守谷市独自に配置している外国語指導助手（ALT）による「英語活動」の授業が小学校第1学年から展開されている。小学校低学年から生きた英語に触れる機会が増えることで、児童が英語でコミュニケーションを図る機会が増加したという成果が上がっている。昨年度行った意識調査からも、「英語活動の時間がとても楽しい」と回答している児童が90%以上おり、外国語や異文化を理解し、自他の文化や価値を尊重しようとする素地が形成されていることが明らかとなっている。

低学年においては、児童はALTと歌やアクティビティーを行いながら楽しんで「英語活動」を行うことができた。ALTが積極的に児童と関わり、楽しく自然に英語に触れる機会が増えたことで、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意識が高まった。また、今年度実施の英検ESGのリスニングとリーディングでは、受検者の95%が「よくできました」のレベルであり、外国語学習において英語を用いたコミュニケーションを意欲的に図ろうとする態度を育成することができたと考える。

今後の方針としては、児童がALTや英語スペシャリスト教員との日常の交流を通して、より多くの生きた英語に触れることでコミュニケーション能力のさらなる向上を目指したい。また、授業内での言語活動の工夫や、授業外の時間にも英語に触れることができる環境づくりを工夫し、児童の外国語学習に対する興味関心を高めていきたい。さらに、体験的な活動を通して外国語や異文化を理解し、自他の文化や価値を尊重することができるグローバルな視野や態度の素地を育む学習を行うことで、英語でコミュニケーションを図りたいという意欲も高めていく。